

選択的介護モデル事業について

令和2年3月17日
介護保険特命担当課長

1. 選択的介護利用者数の推移（2020年1月末まで）

- 平成30年度モデル（指定訪問介護と保険外サービスの組み合わせ）においては11者の事業者が参加しており、そのうち選択的介護を提供している事業者は 8者である。
- 2018年8月のサービス提供開始以降、利用者数は少しずつではあるが増加しており、2020年1月末時点では34件となっている。
- サービス区分ごとの内訳は、居宅内のサービス23件、居宅外のサービス8件、見守り等のサービス9件となっている。

○選択的介護利用者数の推移（延べ契約件数）

	2018年					2019年												2020年
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
選択的介護利用者数	1	6	8	11	11	16	18	19	21	23	24	24	27	27	31	32	33	34

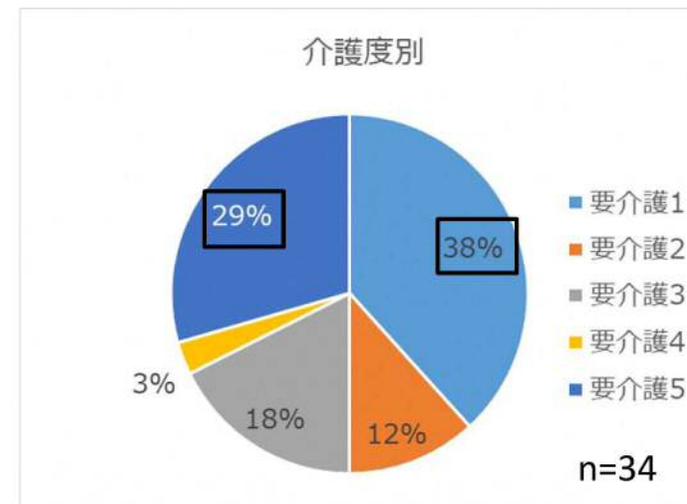
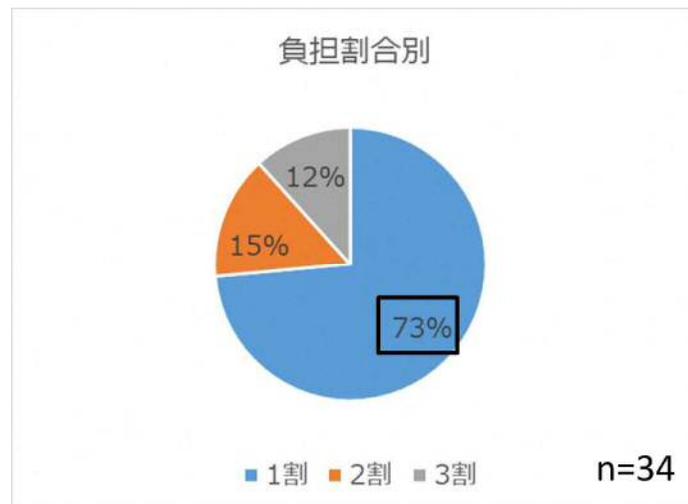
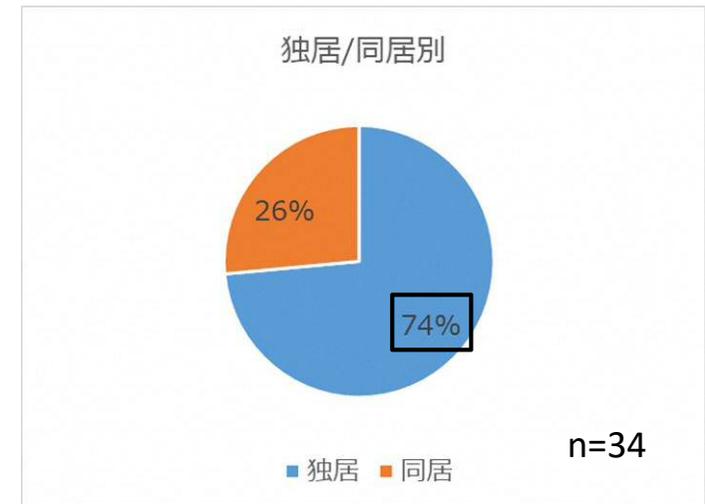
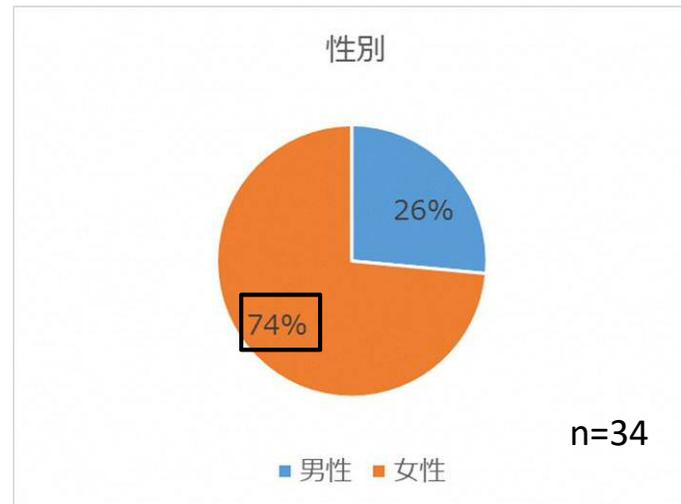
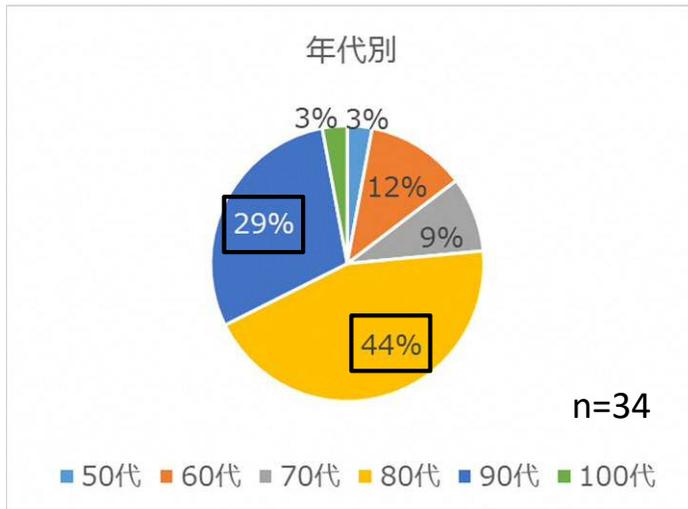
○サービス区分ごとの利用者数の推移（延べ件数）

	2018年					2019年												2020年
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
居宅内のサービス	0	4	4	5	5	9	10	12	14	16	16	17	19	19	20	21	22	23
居宅外のサービス	0	0	1	2	2	2	2	4	4	4	5	5	6	6	7	8	8	8
見守り等のサービス	1	2	3	4	4	5	6	6	7	7	7	7	7	7	9	9	9	9
合計	1	6	8	11	11	16	18	22	25	27	28	29	32	32	36	38	39	40

※同一の利用者が複数のサービス区分を利用しているケースがあるため、上表の契約件数とは一致しない。

2. 選択的介護利用者の状況（2020年1月末まで）

- 年代では80～90代、性別では女性、独居／同居では独居世帯が7割強を占めている。
- 介護サービスの利用者負担割合においては、1割負担が7割強を占めている。
- 介護度においては要介護1が占める割合が4割弱と最も高く、次いで要介護5の占める割合が高い。



3. 選択的介護実施モデルケース①

基本属性

性別	女性
年齢	70代
世帯	独居
住居形態	一般のマンション・ アパート
負担割合	1割
日常生活自立度(障害)	C2
日常生活自立度(認知)	自立
介護度	要介護5

介護保険サービス利用状況

・訪問介護 ・福祉用具貸与
・訪問リハビリ ・居宅療養管理指導

選択的介護サービス利用状況

区分	居宅内
利用開始月	2018年9月
新規／切替	新規加入
サービス内容	電子機器の操作確認
詳細	スマートフォンの初期設定、 操作説明
利用頻度	隔週1回
提供タイミング	訪問介護の合間または提供後
利用時間／月	2時間
利用金額	6,696円

利用開始の経緯

利用前の状況・ 導入の経緯	【主たる介護者】なし 独居で重度の障害を持っているため24時間の援助が必要。夏の猛暑で外出時に熱中症気味になった際、長男にすぐに連絡を取ることができなかったことがあり、いつでも連絡が取れるよう本人がスマートフォンの購入を検討した。購入後の各種設定等についてサポートが必要であったため、選択的介護での対応を検討した。
利用者及び家族 等の意向	【利用者】自宅で今までどおりの生活を続けたい。家族には負担をかけず自立した生活を送りたい。
サービス認知の きっかけ	サービス提供中の会話等からヘルパーが本人のスマートフォンの利用意向を把握。それを受けて選択的介護の活用について管理責任者が提案。

契約時の状況

説明時の工夫等	【説明者】管理責任者 【同席者】ヘルパー 利用者は認知機能に問題がなく、事業者からの説明に加えて、自身でもパンフレットを読み、内容を理解していた。
---------	---

サービス提供時の状況

保険内・外サービスの 切替時の工夫等	見守りサービスのため、保険内外の区別は問題なく理解している。
-----------------------	--------------------------------

導入による効果

利用者	スマートフォンの音声認識機能の活用で、電話やメール等のスマートフォンの各機能の操作が可能になり、利用者はいつでも連絡が取れる安心感を得ることができている。また、スマートフォンの音声認識機能を活用した家電の操作等も可能になり、今後より自立した生活を送れる可能性を感じて、期待感を持っている。
事業所・ヘルパー・ ケアマネ	利用者が自身でいつでも連絡することが容易になったことで、訪問時間外の不安が軽減された。また、スマートフォンからエアコンの操作を自身で行うことができるようになったことで、室温管理への不安が解消した。利用者はスマートフォンの更なる活用方法を検討しており、今後も必要に応じて選択的介護で対応する方向。

3. 選択的介護実施モデルケース②

基本属性

性別	女性
年齢	90代
世帯	独居
住居形態	戸建住宅
負担割合	1割
日常生活自立度(障害)	A1
日常生活自立度(認知)	Ⅲa
介護度	要介護2

介護保険サービス利用状況

・訪問介護

選択的介護サービス利用状況

区分	居宅内
利用開始月	2018年9月
新規/切替	新規加入
サービス内容	ペットの世話
詳細	ペット周りの掃除と餌の購入
利用頻度	1回15分/週2回
提供タイミング	訪問介護提供後
利用時間/月	2時間
利用金額	5,400円

利用開始の経緯

利用前の状況・導入の経緯	【主たる介護者】なし ADLの低下に伴いヘルパーの生活支援を受けながら居宅で生活をしている。家族のように大切にしているペットと暮らしていくのが生きがい。自身でペットの世話をしていたが、ペットの成長と認知症の影響で困難になっていた。
利用者及び家族等の意向	【利用者】ペットは自分の娘同様なので、しっかり世話をしてもらいたい。
サービス認知のきっかけ	担当ケアマネジャーより提案

契約時の状況

説明時の工夫等	【説明者】サービス提供責任者 【同席者】ケアマネジャー ペットの世話については保険外サービスとなることを選択的介護のパンフレットを見せながら説明し、本人の了承を得た。利用時間については、ペットの世話の内容と所要時間など一つずつ利用者に確認し、協議のうえ決定した。
---------	--

サービス提供時の状況

保険内・外サービスの切替時の工夫等	介護保険と保険外サービスの切替時に声掛けを行っている。 介護保険と保険外サービスの提供時間が区別しやすいように、提供記録票を分けること、その都度用紙に支援時間を記入していき、1か月分の使用時間をまとめ、把握しやすいようにしている
-------------------	---

導入による効果

利用者	ペットの話全員でして喜びを分かち合えることにより、不安定だった利用者の精神状態の安定など予想外の効果があった。
事業所・ヘルパー・ケアマネ	ケアマネも保険外サービスに関与するようになり、関係者全員でペットの話など利用者に関する話をより多く共有できるようになった。ご本人との会話が増え、信頼関係を築くことができている。

3. 選択的介護実施モデルケース③

基本属性

性別	男性
年齢	90代
世帯	独居
住居形態	一般のマンション・ アパート
負担割合	2割
日常生活自立度(障害)	B2
日常生活自立度(認知)	IV
介護度	要介護5

介護保険サービス利用状況

・訪問介護
・訪問入浴

選択的介護サービス利用状況

区分	見守り等
利用開始月	2018年11月
新規／切替	新規加入
サービス内容	みまもりプラン
詳細	1日2回カメラ訪問
利用頻度	-
提供タイミング	カメラ訪問(5時半、23時半)
利用時間／月	-
利用金額	4,980円

利用開始の経緯

利用前の状況・ 導入の経緯	【主たる介護者】上階に住む息子 グループホームに入居していたが、病状の変化から入居の継続が困難と判断され在宅復帰となる。本人は認知症重度でパーキンソン等多動で転倒の危険性が高い。住居はビルでエレベーターなし。同建物の別フロアに居住する次男は日中仕事で不在、次男の妻は腰痛のため介護は困難。また、深夜帯も頻回に様子を確認するのは困難である。次男が自宅への引き取りについてケアマネに相談した際に選択的介護の利用意向があった。
利用者及び家族 等の意向	【家族】本人は集団生活が難しいため、自宅で安全かつ自由に生活できるようにできる限りのことはしたい。家族の負担が過大にならないよう介護保険サービスや選択的介護を活用したい。
サービス認知の きっかけ	次男は選択的介護に関心を持っており、相談時には既にサービスを認知していた。

契約時の状況

説明時の工夫等	【説明者】管理責任者 【同席者】ケアマネジャー、次男 次男への説明となったが、ウェブカメラ等の機器にある程度精通している方だったため、導入は円滑であった。
---------	---

サービス提供時の状況

保険内・外サービスの 切替時の工夫等	見守りサービスのため、保険内外の区別は問題なく理解している。
-----------------------	--------------------------------

導入による効果

利用者	随時カメラで見守りができるため家族は安心が得られ、本人や各ヘルパー等の状況把握が的確に行われている。
事業所・ヘルパー・ ケアマネ	病状が重く事業者としても本人の安否に不安があったが、サービスの導入によりヘルパーが訪問しない時間帯も様子が確認でき、利用者へのアセスメントがより深いものになった。

4. 今後の実施内容・進め方（案）

- 平成30年度モデルに係る今後の実施事項及び検討事項としては以下を予定している。

○検証作業の継続、検証結果も踏まえた報告書の取りまとめ

- 実施中のアンケート調査も含めて再度検証作業を実施、平成30年度モデルの報告書として取りまとめる。

○報告書の公表、豊島区内外への周知

- 取りまとめた報告書については、豊島区内で活用するとともに、東京都内での選択的介護の普及促進等にも活用する。

○令和3年度以降の実施方針・方法の検討と整理

- 現行制度で実施できる内容ということも踏まえ、モデル事業終了後における事業者のサービス提供継続について、方針や支援方法等を具体的に検討し、整理する。

5. 令和元年度モデルの概要

- ・令和元年度モデルは通所介護・居宅介護支援と保険外サービスの組み合わせにより実施（令和元年12月～）
- ・①デイサービスでの健康・療養支援、②IoT機器等を活用した在宅支援の2つのサービス区分でサービスを提供
- ・サービスの内容等詳細については、別添のパンフレット「【通所介護・居宅介護支援】選択的介護のご案内」を参照
- ・令和元年度モデルの検証方法については、今後検討する。

1 デイサービスでの健康・療養支援サービス

デイサービス × 健康・療養支援

薬剤師・管理栄養士がデイサービスを訪問して、以下3つのサービスを提供します。

①お薬相談

②薬のお届け

③健康相談・
栄養相談



2 IoT機器等を活用した在宅支援サービス

デイサービス・居宅介護支援 × センサー機器

デイサービス・居宅介護支援の利用者のご自宅に、センサー機器等を設置して、利用者の生活リズムを把握し、適切な生活リズムの維持・回復のためのサービスの提供や、家族や関係する多職種での情報共有を行います。

